岡山大学

PRESS RELEASE

平成２２年４月２２日

# 造山古墳群の調査成果

＜概要＞

３月に周濠と周堤の存在が確認されました造山古墳の発掘調査について、現地での発表以後に明らかになった成果を紹介し、あわせて、装飾の劣化が問題となった千足古墳石室の三次元計測の結果について、現状を報告させていただきます。

＜本　文＞

１．造山古墳の周濠と周堤について、３月１７日段階ではやや不確実な部分もあったが、３月末までの調査で周濠と周堤であることがほぼ確実となった。

・周堤の下の層から弥生時代末～古墳時代初頭の土器が出土した。

・周濠の堆積土から中世初頭頃の土器が出土した。

・前方部周濠の堆積土は下層では埴輪など古墳時代の遺物のみ出土した。

２．今回の発掘で周堤が確認された地点の外側にも円弧を描く畔が残存しており、それが石津丘古墳（履中陵古墳・百舌鳥ミサンザイ古墳）の周濠内側と重なることから、さらに外周の状況に関心が集まっている。

３．前方部の周濠が幅約２０ｍで一定の幅である可能性が高まった。

４．千足古墳石室の三次元計測の成果がひとまずまとまった。レーザーを用いた三次元計測によって石室のような文化財の形態を記録することがきわめて有効であると確認できた。

５．今後は、こうもり塚古墳などの大型石室で三次元計測を試みたい。

・５月に国際日本文化研究センター（宇野隆夫ら）と共同で。

＜お問い合わせ＞
岡山大学　大学院社会文化科学研究科
・新納　泉（にいろ　いずみ）
（電話番号）０８６－２５１－７４１８
０９０－４８９９－５３４７
（FAX番号）０８６－２５１－７３５０